

〔曲名〕 Serenade

セレナーデ

〔曲種〕

〔作曲者〕 Charles Francois Gounod

シャルル フランソワ グノー

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

19世紀のフランスの大作曲家グノーの歌曲で、古くから最も親しまれているのは、
バッハの平均律クラヴィーア曲集の前奏曲一番による「瞑想」（アヴェ・マリア）と、このセレナーデ
であろう。

日本では既に大正4年（1915）にセノオ楽譜第4番として杉浦非水の美しい表紙絵で出版されている。

夜の調べ（表題訳名）

あわれ床しき歌の調べ

夕べはるかに胸に聴けば

心は帰る楽し昔

あゝ唄えや君よ永遠に唄え

いざ懐かし君唄え

唄え唄えあゝ永遠に・・・

筆者は今までマンドリンオーケストラへの編曲は大小200を越えているが、泰西名曲の類（誰もが知って

いる曲)は余り手がけていない。

挙句の感想は、マンドリン合奏の最大の魅力は何と云っても美しい旋律(メロディ)が最優先する。

恰も人間の美人の要素がその外郭を形作る容貌容姿によって決まるのに似ている。

勿論ハーモニーもリズムもこれを一層輝かしいものにする為にあるのはよいが、若しこれらを優先するのであれば、

それはむしろ他の楽器に席を譲ってしまった方がよい。

そうした観点に立つと、オリジナルに拘ることなく、美しいものは何でも頂く方へ廻った方が得策で、そうした眼で辺りを見渡すと宝の山である。

今まで余り注意しなかったような曲でも、改めてよく観ると永い間、風雪に耐えて残ったものは、やはりそれだけの理由を何処かに発見できるものであって、近頃ではそんなことが生き甲斐のように感じられるのである。

1993年 8月 発行

マンドリン合奏曲集8集 (JMU版 パート譜付) より